

神社の杜 (十)

「山の神」

ビクターセンター
所長 片柳 茂生

皆は、オコジョという動物を知っておるか。この動物はイタチの仲間であ、高い山に棲み、冬になると毛が真っ白に変わるんじや。

御岳山にもオコジョがおると古者は言つておるが、儂は見たことがないんじや。それでよく調べてみたらだ、御岳山でオコジョと言うのはヤマネのことじゃった。

ヤマネは、格好も大きさもネズミに似ておるが、背中に黒い線が一本あり、しっぽにも毛が生えておるんじや。夜になると木の実や葉、それに昆虫を食べているのを儂もよく見かける。冬になると、野



球のボールのように体を真ん丸にして冬眠するんじやが、その格好がまたかわいくてたまらんのじや。時には、家の押し入れの中で冬眠しているのが見つかることもあるんじやぞ。だがこのヤマネ、しょっちゅう見られるもんじやない。夜しか行動しないし、体も小さい、きつと数も少ないんじやろう。今では天然記念物に指

定されているそうじや。

御岳山には、ヤマネについてもう一つ面白いことがあるんじや。それはな、ヤマ

ネが「山の神」
山で仕事を
している時
に「山の神(ヤマ
ネ)」を見か
けたら、たと
えそれが仕
事をはじめ
たばかりで
も、やめて家
に帰ること、
それが山の
おきてじや。そのま

ま仕事が続けると災いがあるといわれておる。実際に儂は、「山の神」を見たにもかかわらずに仕事を続けて怪我をした人、また怪我をしそうになつた人を幾度となく見てきた。ま、これはめつたに見かけることない動物だからこういう言い伝えができたのだから。

それにしても山の古老が言うことや言い伝えは、まんらうそばかりではなさそうじや。皆もこのおきてを決して忘れてはいかんぞ。



みたけの野鳥

昔からバードウォッチャー(探鳥家)の人達は鳥の鳴き声を「ききなし」と言つて物事に例えて覚えてました。うぐいすは「法華経(ほけきょう)びんずいは「焼酎一杯クイ」。こまどりは「ヒンカエアカラカラ」これは馬の鳴き声です。イカルは「ミノカサホシー」「アカイベキ」となきます。「糞(昔のレインコート)と笠(レインハット)が

あとがき

欲しい「赤い着物が着たい」と言っているんだとのこと。イルカの鳴き声で天気予想できると言われ、晴れは「アカイベキ」雨は「ミノカサホシー」と鳴きわたるそうです。普段から鳴き声を注意して聞くと、天気予報がわりになります。小鳥は、お天気の事を良く知っております

新年早々夕つき早に大雪の平成十年、大雪が何回も降りましたが気象庁は暖冬と連日伝える、積雪が一昼夜で、メートルを越えることは、山上でも30年ぶりとか、雪掃きで体中が痛かったことも、今はなつかしく感じます。小鳥のさえずりが、ここかしこから聞こえて来ます。何憐な野草が、咲きみだれのどかな春の訪れと共に、十号をお届け致します。

「神社参拝記」上伊草久保講々元中島好吉様の玉稿を賜わりありがとうございます。皆さまのご意見、ご寄稿をお待ちいたしております。(片柳)

平成十年三月八日発行

〔非売品〕

編集 武蔵御嶽神社

〇四三六(七)八五〇〇

印刷 (株)成和印刷